

# 人參養榮湯が有効であった慢性上咽頭炎の一例



白井 明子 先生

金沢大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1996年 金沢大学医学部 卒業  
 金沢大学附属病院 耳鼻咽喉科  
 1997年 富山市民病院 耳鼻咽喉科  
 1998年 金沢大学附属病院 耳鼻咽喉科  
 2004年 小森耳鼻咽喉科医院  
 2017年 金沢大学附属病院 漢方医学科  
 2021年 金沢大学附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

## はじめに

慢性上咽頭炎は上咽頭粘膜の慢性持続性炎症であり、咽喉頭違和感、後鼻漏、頭重など多彩な症状を呈する。E-EAT (Endoscopic-Epipharyngeal Abrasive Therapy：内視鏡下上咽頭擦過治療)により、診断と治療が同時に可能である。

上咽頭は常に外気に曝され、ウイルス・細菌等に感染する機会が多いため、慢性上咽頭炎は西洋医学的治療に難渋する症例が多く、漢方治療の効果が期待される。

## 症例

**症例**：79歳 男性。

**主訴**：後鼻漏、咽喉頭違和感。

**現病歴**(図1)：14歳時の慢性副鼻腔炎手術(上顎洞篩骨洞根本術)後から後鼻漏が継続し、漢方治療を始める6年前に当院初診となった。耳鼻咽喉科学的検査では、副鼻腔レントゲンでは術後状態のみを認め、内視鏡下の上咽頭擦過にて触痛(+)・出血(+)であったことから、慢性上咽頭炎と診断した。EAT治療、カルボシステイン内服継続にて症状に改善がないため、X年に漢方治療を開始した。

**漢方医学的所見**(図2)：気血水の観点から倦怠感・易疲労・皮膚乾燥から気血両虚、冷えから虚寒、舌色がやや暗紫色であることから瘀血、乾燥傾向から陰虚を考慮した。五臓に関しては、不眠・不安・健忘から心血虚、下痢の症状と脈候の右寸口がやや沈弦按じてやや細澁から脾肺両

## 図1 症例 79歳 男性

**主訴**  
 後鼻漏、咽喉頭違和感

**既往歴**  
 14歳 慢性副鼻腔炎手術(上顎洞篩骨洞根本術)。

**現病歴**  
 14歳時の慢性副鼻腔炎手術後から後鼻漏が継続し、X-6年当院初診。

**耳鼻咽喉科学的検査**  
 副鼻腔X-p：術後状態  
 上咽頭擦過にて触痛(+)、出血(+)  
 → 慢性上咽頭炎の診断

**臨床経過**  
 EAT治療・カルボシステイン内服継続によっても症状に改善がなく、X年に漢方治療を開始。

**耳鼻咽喉科学的所見(漢方治療開始時)**  
 喉頭ファイバー検査：上咽頭軽度発赤・透明痰・両被裂部腫脹  
 E-EAT：触痛(+)  
 ・出血(+)  
 → 慢性上咽頭炎

## 図2 漢方医学的所見

● 自覚症状  
 後鼻漏、咽喉頭違和感  
 倦怠感、易疲労、皮膚乾燥、不眠、不安、健忘、冷え、下痢  
 気血両虚 心血虚 虚寒 脾虚

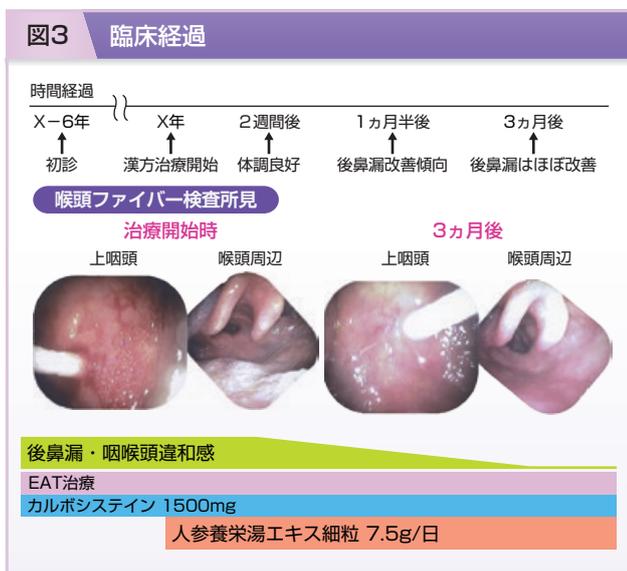
● 他覚所見  
 身長：161cm、体重：47kg、血圧：104/78mmHg、  
 脈拍：60回/分、体温：36.6℃

寸口	关上	尺中
脈候：右 やや沈弦按じて細澁 左 弦按じて澁	弦按じて澁 やや浮弦按じて澁	やや沈弦按じて澁 やや沈弦按じて細澁 腎虚
舌候：舌色はやや暗紫色、薄白苔、乾燥傾向	瘀血	陰虚
腹候：心下痞硬		

→ 人參養榮湯エキス細粒

虚、尺中がやや沈から腎虚を考慮し、気血を補い、脾肺心腎の病態への対処を目的に人参養栄湯を選択した。

**臨床経過(図3)**：漢方治療開始時の喉頭ファイバー検査所見上、上咽頭においてEATにて易出血性の状況を認め、また喉頭周辺には白色粘稠痰を多く認めた。人参養栄湯の服用開始後2週間の時点で体調は良好、1ヵ月半後には後鼻漏は改善傾向で、3ヵ月後には後鼻漏はほぼ改善されていた。その時点での喉頭ファイバー検査所見では、上咽頭においてEATにて出血を認めず、喉頭周辺の白色粘稠痰も消失していた。



考察

人参養栄湯について『三因極一病証方論』には多岐にわたる病態が記載されており、下線で示した症状は本症例に合致していた(図4)。

人参養栄湯は四物湯去川芎、四君子湯の方意を含み、桂皮・黄耆・川芎が加わると十全大補湯の方意を含む気血双補剤であり、陳皮・遠志・五味子が加わることで鎮咳去痰作用も有する処方である。

本症例では気血両虚に加え、脾肺両虚・心血虚・腎虚を生じていたため、人参養栄湯が奏効したと考えられた。

図4 人参養栄湯

『三因極一病証方論』巻之十三 虚損証治 養栄湯(陳言・1174)  
 「治積勞虚損。四肢沈滯。骨肉酸疼。吸吸少氣。行動喘咳。小便拘急。腰背強痛。心虚驚悸。咽乾唇燥。飲食無味。陰陽衰弱。悲憂慘戚。多卧少起。久者積年。急者百日。漸至瘦削。五臟気竭。難可振復。又治肺与大腸俱虚。咳嗽下利。喘乏少氣。嘔吐痰涎。」



「疲勞が蓄積し、四肢が重く、骨肉が辛く痛み、呼吸が浅く、体動時に喘咳し、排尿は困難で、腰背部が強張り痛み、心が虚して驚き、咽や唇が乾燥し、飲食に味なく、陰陽が共に衰弱し、憂鬱で、臥床がち、長年また急性でも百日で瘦せ細る。五臓の気が枯渇し、回復困難なものを治療する。また肺と大腸が共に虚し、咳嗽・下痢・息切れ・痰や唾液を嘔吐するものを治療する。」

まとめ

西洋医学的治療で難治な慢性上咽頭炎で、気血両虚に加えて脾肺や心腎の病態を有する場合、人参養栄湯は治療の選択肢になり得ると考えられる。

Discussion

**木村**：耳鼻咽喉科領域における人参養栄湯の処方のポイントについて教えてください。

**白井**：陳皮・遠志・五味子が上咽頭炎症状の直接的な改善につながったと考えています。

**木村**：抗炎症作用を有する柴胡を含む補中益気湯との鑑別について教えてください。

**白井**：気虚に加えて血虚が強い場合、心腎・脾肺の病態を認める場合には人参養栄湯を選択しています。

**木村**：コロナ禍でご経験された症例のご紹介をお願いします。

**白井**：36歳の男性で、就職後から時折ストレスにより腹痛を生じていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行開始頃から頻りに腹痛を自覚するようになりました。脈候は左関上のみやや浮、舌色はやや暗紫色で薄白苔、腹壁はやや軟で心下痞鞭、胸脇苦満、腹直筋緊張を認めました。心下痞鞭、胸脇苦満、腹直筋緊張を心下支結ととらえ、柴胡桂枝湯エキス錠(18T/日 分3)の内服を開始しました。1週間後に心下痞鞭、胸脇苦満はほぼ改善しましたが、腹直筋緊張が強いため桂枝加芍薬湯エキス錠(18T/日 分3)に変方したところ、2週間後に腹痛の頻度は減少し、4週間分の追加処方にて終診となりました。元来は桂枝加芍薬湯証でしたが、コロナ禍のストレスにより肝気鬱結が引き起こされ、柴胡桂枝湯証を呈していたと考えました。